編集後記

JOIが現在提供している13に及ぶ企業研修メニューを今号の21ページに掲載しております。その中でも、M&A、贈収賄対応などと並んで特に人気を博している企業研修のテーマが「人権デューデリジェンス」です。会員企業からは、「世界的な動きを見ながら対応を求められるポイントを整理しているが、具体的な実務や社内ルールに落とし込む際にどう対処すればよいのか、企業研修で学びたい」との声が寄せられています。

今号では人権デューデリジェンスの専門家の方々から寄稿頂きましたが、企業活動における人権とは何か、サプライチェーンで人権の視点からどのようなフレームワークを構築すればステークホルダーから理解を得られるのか、人権に関する自社の取り組みをどう対外的に発信すべきか、欧米企業の人権に対する取り組みはどのように変化しているのか、など企業がフォローすべき内容は多岐にわたります。JOIでは、人権デューデリジェンスの専門家とタイアップして、会員企業のビジネスモデルや関心テーマに即してカスタムメイド型の研修サービスを提供しておりますので、もし少しでもご関心があれば、気軽にご相談頂ければ幸いです。

常務理事　田丸伸介

海外投融資
Vol.31 No.6（通巻186号）
2022年11月25日発行

発　　行
一般財団法人　海外投融資情報財団

発 行 人
東 浩
〒102-0073
東京都千代田区九段北二丁目
3番6号　九段北二丁目ビル
TEL. 03-5210-3311（代）
URL. www.joi.or.jp

制作協力
（株）エディポック

＊本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁　無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan

九段だより　温故知新

国際夜行列車のコンパートメントで乗客は筆者１人。国境近くとなり、コンパートメントに兵隊がパスポートチェックに来ました。手短な確認後、出て行った兵隊を見送り、まどろむなか、１時間後、ノックをしてまた兵隊がパスポートチェックに来たので、さっき終わったと、ふてくされて、パスポートを見せると、淡々とスタンプを押して出ていきました。国境を越える際には出国と入国があるのを忘れていました。

これは、1994年にオーストリアからハンガリーへと国境を越えた際の光景であり、ハンガリーもEU域内となった現在では存在しないパスポートチェックになります。2020年のコロナ禍初期において欧州各国の国境が閉鎖されていくなか、ふと、当時のパスポートチェックを思い出しました。（2022年には、シェンゲン協定下の移動の自由はほぼ回復しています。）

この夜行列車は、ウィーンを夜発ち、ブダペスト、ベオグラード、ソフィアを経由し、翌々日にイスタンブールに到着する２泊３日の行程のBalkan Expressと呼ばれる長距離列車でした。Webで検索すると、ベオグラードまたはソフィアからのBalkan Expressの紹介があるものの、残念ながら、ウィーンから出発していた時期の記録は見当たりません。

乗車した1990年代前半は東西冷戦が終了し、資本主義経済が平和裡に拡大する機運が高まりましたが、1990年代後半、ユーゴスラビア内戦は深刻化し、５年後にベオグラードは空爆されました。その過程でウィーンからのルートは消滅した模様です。

2004年にハンガリーがEU加盟、2005年にトルコがEU加盟交渉開始、2007年にブルガリアがEU加盟、2009年にはセルビアがEU加盟申請し、EUの拡大も期待されましたが、以降は、一進一退で、大きな進展がございません。

脱炭素の潮流に伴い飛行機に比してGHG排出が少ない鉄道の活用が重視され、本年９月に４年ぶりに独ベルリンで開催された鉄道技術見本市Inno Transは活況だった由。欧州域内での国際長距離寝台ルートの復活、新規検討の報道も目にします。

ウィーン、ブダペスト、ベオグラード、ソフィア、イスタンブールは、２泊３日でしたが、地図上は概ね一直線上の効率的なルートになります。列車が定期運行し続けることは、平和の基盤において経済交流が継続している証しでもあると思います。オーストリア、ハンガリー、セルビア、ブルガリアおよびトルコと個性的な国々を結ぶこのルートが復活すれば、歴史的な相克を乗り越えバルカン半島が安定化したサインとなるのかもしれません。

専務理事　東 浩